

所属名 カリキュラムセンター	研究会議名 音楽科研究会議
研究主題	学びのプロセスを通して自らの感性を高め、生きて働く「知識」を習得する子どもの育成 ～一人一人が思いや意図をもって、自らの考えを表出する指導の工夫～
資質・能力 育成を目指す	生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力
研究内容	<p>社会の変化が加速度を増し、複雑で予測困難となっているといった時代背景を踏まえた上で、新しい学習指導要領では、資質・能力を「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱に整理された。また、各教科等の指導に当たっては、資質・能力が偏りなく育成されるよう、児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行うことが求められている。</p> <p>本市の音楽科の学習では、子どもたち一人一人が〔共通事項〕に示されている音楽を形づくっている要素を思考・判断の拠り所とし、知覚・感受する活動は定着してきている。これは、本市の先行研究でも検証されているように、音楽を感じ取って、思考・判断し、表現していくという音楽の学びの大切な部分について、教師が教材となる音楽の〔共通事項〕を見極め、知覚・感受の場を設定してきた成果であると考え。しかし、知覚したことと感受したこととの関連について考えたり、それをもとに創意工夫したりすることは、課題が残っている。それは、教師が楽曲を完成させることや技能を習得することに重点を置いてしまうことにより、子どもたち自らが試行錯誤して創意工夫することに結びついていないと考えられる。</p> <p>そこで本研究会議では、本市の課題を踏まえて、目指す子どもの姿を「知覚したことと感受したこととの関連について自分なりに理解したことを、新たな音楽活動で活用しながら更新し、表現や鑑賞に生かす喜びを感じる姿」とした。この姿に迫るために、子どもたちが自らの学習を調整したり、他者と協働したりし、知覚・感受したことを関連付け、一人一人が思いや意図をもって表現するための生きて働く『知識』を身に付ける音楽科の学びのプロセスを研究する。そして、学びの深まりを自分の考えとして表出するシートを開発する。</p> <p>以上のことから、研究主題を「学びのプロセスを通して自らの感性を高め、生きて働く『知識』を習得する子どもの育成」とし、副題を「一人一人が思いや意図をもって、自らの考えを表出する指導の工夫」とした。音楽科の一連の学びのプロセスを通して、三つの資質・能力を関連付けて一体的に身に付け、子どもたち一人一人が音楽の学習を深めていく姿を検証していく。</p>